

 令和7年度 11月号	学校通信 にわだに	《学校教育目標》 自ら学ぶ意欲と主体的に 探究できる子どもの育成 堺市立上神谷小学校 堺市南区片蔵1425番地 Tel072-297-0028 Fax072-297-2002 http://www.sakai.ed.jp/niwadani-e
--	---------------------------	--

「世界に貢献する力を、子どもたちへ」

先日、本校では稲刈りを行いました。機械ではなく、子どもたちが一人ひとり鎌を手に取り、昔ながらの方法で稲を刈りました。初めて鎌を使う児童もあり、最初は戸惑いながらも、次第にコツをつかみ、汗をかきながら一生懸命に取り組む姿が印象的でした。収穫の喜びを実感するとともに、自然の恵みや農作業の大変さを肌で感じる貴重な体験となりました。

このような体験は、便利な世の中にあっても、昔からの知恵や文化を尊重する心を育む大切な機会です。生活はどんどん向上し、より快適で安全に、そして豊かに暮らせるようになっていますが、一方で「不便さを楽しむ」心の余裕や、自然と共にある暮らしの美しさを感じる感性も、これからの時代に大切にしたいものです。

さて、この秋、日本から二人の研究者がノーベル賞を受賞されました。生理学・医学賞の 坂口志文先生 は、免疫の暴走を防ぐ「制御性T細胞（Treg）」を発見し、自己免疫疾患やがん治療に革新をもたらしました。化学賞の 北川進先生 は、二酸化炭素の吸着などに活用される新素材「金属有機構造体（MOF）」を開発し、環境問題の解決に貢献しています。

坂口先生の研究は、関節リウマチや潰瘍性大腸炎などの難病治療に応用が始まっており、今後はがん治療にも新たな可能性が広がると期待されています。北川先生の MOF 技術は、工場の排ガスから二酸化炭素を効率よく回収する技術として実用化が進み、さらに水素の安全な貯蔵や薬剤の的確な投与など、医療・エネルギー・環境の分野での応用が広がっています。

また、過去の日本人受賞者の研究も、私たちの生活を豊かにしています。たとえば、山中伸弥先生（医学）の「iPS細胞」は再生医療に活用され、吉野彰先生（化学）の「リチウムイオン電池」はスマートフォンや電気自動車など、現代の暮らしに欠かせない技術となっています。

これらの研究は、「もっと良くしたい」「困っている人を助けたい」という思いから始まりまし

た。そして、子どものころの「なぜ?」「どうして?」という疑問が、未来の発見につながっていきます。

本校の子どもたちにも、科学や技術の力で未来を切り拓く力とともに、文化や人とのつながりを尊重する心を育ててほしいと願っています。日々の学びや遊びの中で感じる不思議や興味を、友だちや先生と共有しながら、未来への一歩を踏み出してほしいと思います。

未来のノーベル賞受賞者が、ここから育っていくことを願って。教職員一同、子どもたちの可能性を信じ、支えてまいります。

● いもほり・稲刈り体験

営農組合様のご支援のもと、いもほり体験と稲刈り体験を行いました。地域の方々の温かいご協力により、子どもたちは土に触れ、自然の恵みを肌で感じる貴重な時間を過ごすことができました。ご尽力いただきました営農組合の皆様に感謝申し上げます。

● 土曜参観・見守り隊感謝の会・上神谷っ子の集いについて

11月2日(土)に「土曜参観」・「見守り隊感謝の会」を行います。参観後の「見守り隊感謝の会」では、全学年が体育館に集まり見守り隊の皆様にご挨拶と感謝の気持ちを伝えます。ぜひ、「見守り隊感謝の会」にも参加いただきますようお願いいたします。

また、午後からはPTA主催の「上神谷っ子の集い」が行われます。そちらの方も参加いただき、楽しんでいただければと思います。

● 「ふれあい交流事業」について

若松台中学校区青少年健全育成事業の一環として、11月15日(土)に若松台中学校で「ふれあい交流事業」が開催されます。詳細は先日配信しました案内をご覧ください。申し込み締め切りは11月5日(水)となっております。

● 収穫祭について

営農組合様のご支援いただき、今年もたくさんのお米を収穫することができました。今年から内容に変更はありますが、11月20日(木)に収穫祭を予定しています。詳細は後日配信しますので、ご確認をお願いします。